

東名病院だより

Vol. 3

第11号
2003.9月発行

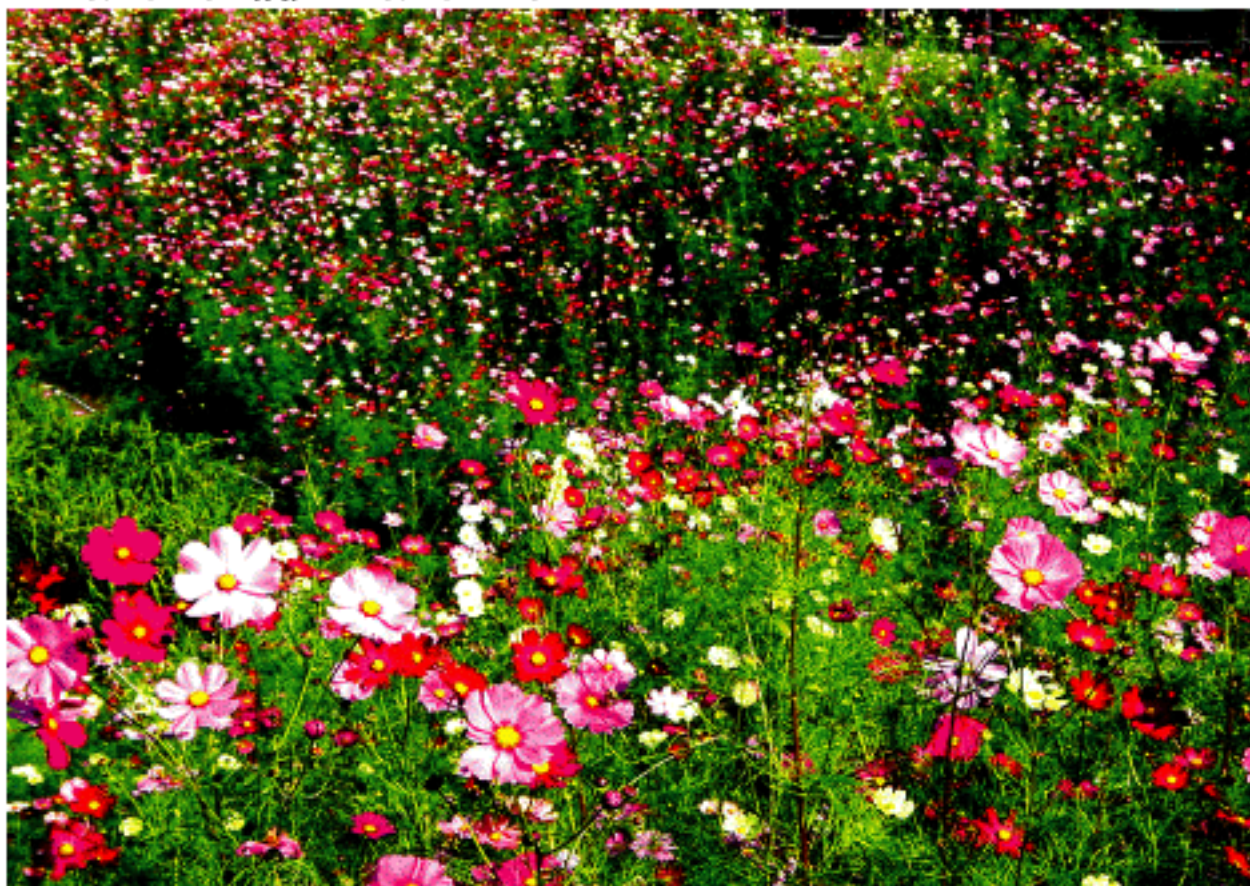
東名病院ホームページアドレス・Eメールアドレス

<http://www.med-junseikai.or.jp/tomei/index.html>

e-mail tomei-hosp@med-junseikai.or.jp

東名病院発行／〒480-1153愛知県愛知郡長久手町作田一丁目1110

TEL 0561-62-7511(代)FAX 0561-62-2773



花フェスタ記念公園にて院長撮影

今年は冷夏と書いていましたら、猛烈な残暑が続いています。皆様、体調はいかがでしょう？私どもの病院では原川副院長により、下肢静脈瘤や痔疾患の治療が始まりました。職員の方々も色々な苦しい経験の中から新しい生活を求めて、努力をしておられることがわかって大変うれしく思います。今後とも、これらの経験を生かして新しい未来を切り開いていかれることを期待しています。病院理念の親切、親身、信頼（3S）を持って今後も新しい医療を推進していきたいと考えています。

脚に静脈瘤がありますと、特に夕方などに脚がだるくなったりします。これは立っていると静脈血がうっ血するためで放置しておいても静脈瘤が治るということはありません。今日はこの下肢の静脈瘤についてお話ししたいと思います（写真1）。

1 下肢静脈瘤とは？

下肢静脈瘤は、静脈の弁が壊れ血液が逆流してうっ血するため、下肢の皮下静脈が異常に拡張して盛り上がる病気です。静脈瘤もひどくなると、色素沈着といって皮膚の色が変わってくるのですが、もっとひどくなると潰瘍を作ることもあります。

下肢静脈瘤という病気は、古くは古代ギリシャ時代の建造物の彫刻にもあらわされています（写真2）。矢印が静脈瘤を示しています。またヒポクラテスも下肢静脈瘤について述べています。皮膚潰瘍を伴う例では、立位になることは病気に好ましくないとか、圧迫包帯により、症状の軽快が得られると書いています。一方、現代でも、特に欧米ではおおざっぱに言って成人女性の20%、男性でも7~8%が下肢静脈瘤に罹患していると言われていています。

下肢静脈瘤の原因は、静脈の弁不全と壁の脆弱化です。静脈には弁があり、そのため立った状態でも血液が脚の方から心臓の方へ流れていきますが、弁が壊れていますと、そこで血液が逆流してうっ滞します。なぜ静脈の弁不全や壁の脆弱化が生じるかわかっていませんが、ホルモン関係とか体質とかが言われています。静脈瘤がある多くの方は静脈瘤を起こしやすい体質の上に、女性では特に妊娠を契機として発病してきます。そして、立ち仕事は病気の進行を早め、下肢のだるさなどの症状を重くしていきます。

2 下肢静脈瘤の診断

静脈瘤があるかは、立位の状態を見ただけで普通にわかりますが、病態を把握するには、静脈のどの弁に弁不全があるか？と言うことがポイントになります。これは、視、触診と脚にゴムを巻いたり、はずしたりする検査で大体わかります（写真3）。



写真1



写真2



写真3

こういった静脈瘤の患者さんに対して、ある程度以上ひどい方には、従来はストリッピング手術を勧めてきました。手術がいやな方には弾力ストッキングを履いてもらいました（写真4）。しかし、弾力ストッキングだけでは根本的な解決にはなりません。そしてこの頃注目されだしたのが硬化療法です。最近では、硬化療法には保険が使えます。



写真4

3 硬化療法とは？

硬化剤を静脈瘤に局所注射して、2～3週間圧迫していると、その部位に血管内膜炎が起こります。そして、静脈の内膜同士がくっついて、その箇所の血液の逆流もなくなる。という治療法です。弾力ストッキングをはいていれば、治療中に家事や仕事もできますし美容的な仕上がりにも優れています。

4 硬化療法の手順

外来または手術室で、静脈瘤の部位に細い針を刺し、硬化剤を注入します。そして弾力包帯や弾力ストッキングをはいていただきます（写真5）。大伏在静脈という静脈の逆流が強い方は「高位結紮」といって、大腿の付け根で静脈を縛ってしまうという事を追加します。これは硬化療法が終わって包帯を巻いてから、局所麻酔で行います。痩せている方で約2cm、太めの方で約3cmの切開でやっています（写真6）。



写真5

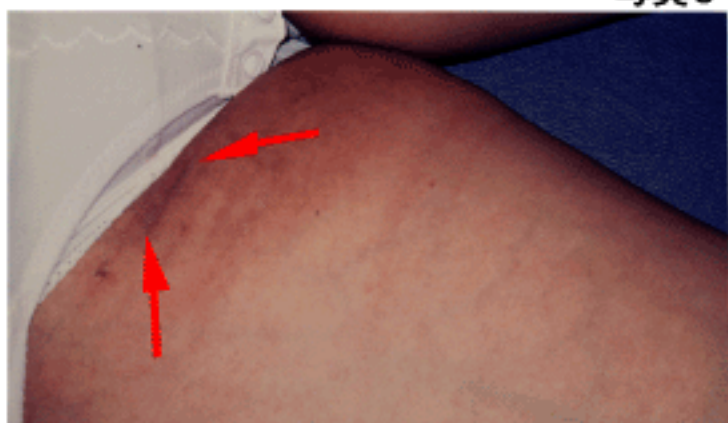


写真6

5 硬化療法の実際

この患者様はかなりひどかったのですが、二回ほど硬化療法を行いまして、その治り具合には満足されています（写真7）。



手術後

手術前

写真7